

令和 4 年度 県立土浦工業高等学校自己評価表

目指す学校 像	自己開発や自己実現に必要な知識・技能の修得を図るとともに、豊かな人間性の涵養と心身の鍛練に努め、幅広い視野に立って社会の発展に寄与する青少年の育成を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
本校の教育方針を具現化するために、昨年度の反省を生かし、組織目標を設定した。 コロナ禍において求人への影響が懸念されたが、希望生徒は早期に幹旋就職内定率 100%を獲得できた。進学においても推薦入試合格率 100%を達成できた。また、キャリア教育の一貫としてのインターンシップは、地域事業所 88 社の協力により 2 年生 146 名の生徒が様々な体験をして職業観や就業感を獲得できた。3年間を通じたキャリア教育のもと、生徒個々が早い時期に進路実現をできるよう、各部署との一層の連携強化を図る必要がある。 自転車マナーについて講習会を実施し、交通事故の未然防止に努めているが、定期的な郊外巡視を行い、ながら運転や並列走行等の違反運転を継続的に指導する必要がある。 コロナ禍で9月の基礎学力テストは中止となったが、4月と1月に学びの基礎診断として基礎学力テストを実施した。また、GIGA 端末等の利用者が、校内で守るべきルールを決めた。今後は生徒・教員ともにGIGA スクール構想への理解を深め、効果的な ICT を利用した教育活動に努める。 今後とも地域社会との連携を強化し、更に信頼を獲得するために、教職員が一丸となり生徒理解に努め、組織的・計画的な取り組みを向上させるため、右の重点目標を設定した。	工業教育の特色を活かし、社会貢献ができる生徒の育成	①ものづくりや資格の取得を強化して、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ②工業教育の特色を十分に発揮し、新たな技術に対応できる実践力と未来を創造する力を養う。 ③工業人としての自覚を形成し、自ら学び、考え、社会の変化に対応するための「生きる力」を育む。	A
	主体性を生かしたキャリア教育の推進	④組織的、計画的なキャリア教育により、社会における自己の役割と在り方を探求し、進路決定 100%を実現する。 ⑤企業や地域社会との連携を強化して、実践的・効果的なインターンシップを実施する。 ⑥ コミュニケーション能力を高めるとともに、正しい勤労観・職業観を育成する。	B
	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	⑦学校・家庭・地域社会が連携して基本的生活習慣の確立を図る。 ⑧一人一人の生徒を理解するとともに、高校生としての自覚と責任感を身に付けさせる。 ⑨組織的、計画的な生徒指導を全教員で行い、規範意識の高揚や、マナーと道徳心を大切にする姿勢を育成する。 ⑩本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、学校・家庭・地域住民、その他関係者と協力して、いじめの防止等に取り組む。	A
	基礎学力の向上	⑪生徒の実態に即して、ICT等の活用や「わかる授業」を実践し、授業の改善に努め、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。 ⑫必要に応じて、義務教育段階の学習指導を行い、自ら継続して、学ぶ習慣を身に付けさせる。 ⑬進路希望に応じたきめ細かな指導を工夫・実践することにより、より高い目標に挑戦する意欲を育て、「確かな学力」を身に付けさせる。	B
	特別活動の活性化	⑭ホームルーム活動や部活動などの様々な学校生活の中で、自主性・協調性を発揮し、問題解決しようとする実践的な態度を身に付けさせる。 ⑮部活動の加入・継続を促し、健全な心身の成長と、広く有意義な交友関係を築くとともに、学校の活性化を図る。	B
	PTA 活動の活性化	⑯生徒一人一人の健全な育成を目的として、保護者と教師が密に連携し、信頼関係の上に PTA 活動を推進する。 ⑰地域社会と連携し、積極的に情報を発信する機会を設け、開かれた学校づくりを推進する。	B
	信頼される学校であるために	⑱教員一人一人が、コンプライアンスを遵守し、「信頼される教員」であることが「信頼される学校」づくりにつながることを認識する。 ⑲教員がこれまでの働き方を見直し、自分の授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行う。	B

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーションポリシー)	工業に関する実践的な技術・技能の修得と、自ら考え行動する主体性、他者と協働する協調性の育成により、地域社会における産業の担い手として貢献できる人財を育てる。	B	B 卒業してから社会に貢献できる人材を目指すよう、自ら目標を設定できるようにする。 地域産業界・業界団体とより一層連携し、積極的にキャリア教育を推進する。 本校に関心のある中学生や学校関係者に向け工業高校の魅力を伝える積極的な広報活動。
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラムポリシー)	工業各学科の特徴を生かした実践的・体験的な教育課程と地域産業界・業界団体と連携したキャリア教育による、就職から進学まで、生徒一人一人に対応した進路希望を実現する。	B	
	入学受け入れに関する方針(アドミッションポリシー)	モノづくりや工業の様々な分野に関心を持ち、専門的な技術・技能の修得と自らの進路実現にむけて積極的に様々な活動に取り組む意欲のある生徒。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	基礎学力の向上	生徒の主体的な学びを引き出すために、ICTを活用するなど、生徒の実態に即して丁寧な授業を行う。 ⑪	B	B 【課題】 昨年度より的確、スムーズに ICT を活用することが出来た一方、生徒用タブレットの使用頻度が少なかった。 【取組の方向性】 生徒用タブレットを活用させる。教員と生徒が双方向に活用し、生徒の学習状況を効率良く把握するために、教員間で研修が必要だと考える。
		副教材等を活用し、社会に出るに当たって必要な漢字力・語彙力の向上に努めさせる。また、漢字検定を年間3回実施し、目標達成に向けた学習に取り組ませる。 ⑫⑬	A	
	学習意欲を高める指導方法の工夫	定期的に小テストを実施することで、生徒に達成感や小さな努力を積み重ね学び続ける大切さを実感させる。 ⑪⑫	A	
		学習の進め方や課題をより具体的に示し、継続的な家庭学習を促す。 ⑫⑬	B	
	進路に応じた学習の補助	生徒それぞれの進路実現に向けて、作文や小論文などの指導を定期的に行う。 ⑫⑬	A	
		インターンシップや進路活動と関連付けて、話すことや書くことの指導を行うことで、コミュニケーション能力を高める指導を行う。 ④⑥⑬	A	
教科指導 (地歴・公民科)	基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の定着のため、授業内容の精選、教授方法や定期考査の改善を図る。 ⑪⑫⑬	A	B 【課題】 ・視聴覚教材を使用した、教授方法のさらなる工夫改善 ・生徒の表現力向上を促す場面を、より多く取り入れる。 【取組の方向性】 ・目標設定そのものは妥当であり、目標達成に向けて工夫改善を図りたい。
		生徒の主体的な学びにつながるよう、調べ学習や発表の機会をもうけ、生徒表現力も同時に育む。 ⑪⑫⑬	B	
	学習意欲や理解を高める指導法の工夫	教科書の内容を軸としながら、生徒の問題関心に沿って題材を取り上げ、学習意欲向上につなげる。 ⑪⑬	A	
		生徒の学習意欲を高め、かつ学習内容の理解を向上させるため、視聴覚教材等を使用し、教授方法の工夫改善を図る。 ⑪⑬	B	
教科指導 (数学科)	基礎学力向上	年間指導計画(シラバス)に沿って、科目の目標、指導内容、評価計画等を明確にした授業を実践する。 ⑪	B	B 【課題】 ・SPI や筆記試験等、就職希望者への学年・進路指導部等と連携した計画的な対応。 ・工業系大学進学希望者の入学後の不安解消。 【取組の方向性】 ・クラス学習の遅れがちな生徒への対応とともに、意欲ある生徒にも充実感を与える授業の実践。 ・実用数学検定資格取得への意識を高め、合格へ導きたい。
		基礎的・基本的内容が身につけられるよう、教材・指導内容の精選を図る。また、学年の担当者と連携をとりながら、より効果的な指導方法で授業を展開する。 ⑪⑫	B	
	学習意欲を高める指導方法の工夫	工業系大学進学希望者への課外や、学習が遅れがちな生徒等に対応する補習を適宜行い、指導の充実を図る。 ⑪⑫	B	
		実用数学技能検定を実施する。必要に応じて補習を計画、受検者数の増加及び合格率の向上に努める。 ①⑪⑫⑬	B	
		生徒実態や工業各科の特性に応じて教材や指導内容の選択を検討、興味・関心を引き出し、専門科目に対応する力をつけさせる。 ①⑪⑫	B	

別紙様式 2 (高)

教科指導 (理科)	基礎学力の向上	年間指導計画に従った計画的な授業展開を心がけ、振り返りや演習、復習を織り込んで基礎学力の向上を目指す。 ⑪⑫⑬	B	B	【課題】 ・進学希望者への進学後のためのサポート。 ・実験の回数。準備時間の確保や安全性を考慮しての方法の検討が必要。 【取組の方向性】 ・理科を苦手科目としないよう工夫する。 ・工業科目とのつながりを意識した授業展開。
	実験を取り入れた授業展開の工夫	実験を中心とした指導を通して、基本法則を理解させ、ネット教材・電子黒板等も利用して科学的な常識を身につけられるように指導する。 ⑪	B		
	実験室・薬品庫等の整理整頓	薬品管理台帳を活用し、効率的な薬品の利用及び不要薬物の廃棄に努める。 ⑪⑫	B		
	進路にあわせた学習の補助	進学希望者に対して科目の課外協力や受験に必要な補習等を実施し、上級学校に向けてのサポートをする。 ④⑬	B		
科指導 (体育科)	教科指導の充実	挨拶や服装、時間厳守などの指導を徹底する。 ⑦	A	B	【課題】 ・運動が苦手な生徒や女子でも活動しやすいように工夫する。 【取組の方向性】 ・個々に合わせた指導・声掛け等で充実感のある授業の実施。
		補強運動などを活用し、体力の向上に努める。 ⑪	B		
		視聴覚教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。 ⑪	B		
	事故防止	授業時のルールを作成し、安全指導の徹底を図る。 ⑧⑨	A		
		準備運動・整理運動の指導を徹底する。 ⑧⑨	A		
		施設・器具・用具の安全点検や整理整頓を行う。 ⑧⑨	B		
教科指導 (英語科)	教科指導の充実	年間指導計画(シラバス)に沿って科目の目標、指導内容、評価計画等を明確にした授業を実践する。 ⑪	A	A	【課題】 ・授業内における言語活動の時間を増やし、英語によるコミュニケーション活動の充実を図る。 ・家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を高める。 【取組の方向性】 ・ICT 機器を利用したパフォーマンステストや暗唱活動を行う。 ・グーグルフォームを利用し、家庭学習の習慣化を図る。
		提出物の指導を徹底し、基礎的・基本的な内容を身につけさせるとともに、定期的に課題を与えることで家庭学習における学習習慣の確立を図る。 ⑫	A		
		ペアワークやグループワークによる言語活動を充実させ、英語を用いて生徒が能動的に考えることのできるような授業展開を心がける。 ③⑫	A		
		1学年の英語コミュニケーション I において、ALTとのTTを通して生徒の英語学習への動機づけを図る。また、英語によるコミュニケーション能力を高め、異文化理解を深める。 ③⑥	A		
		電子黒板等ICTを積極的に利用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫を図り、興味・関心を引き出し、生徒の集中力を持続させられるよう努める。 ⑪⑫	A		
	資格取得の推進	リスニング英語検定の補習等を計画的に企画・実施し合格率の向上を図る。また、英語検定の受験を積極的に促し、目標達成に向けた指導を行う。 ①⑬	A		
	進学体制の構築	英作文の指導など生徒のニーズに応じた課外を行い、進学対策を行う。 ⑬	B		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (家庭科)	基本的な知識と技術の定着	授業内容の理解を深めるため、ICTを積極的に活用する。 ⑪	A	B	【課題】 ・早期の自立を助けるため、生活に係る基礎的な知識及び技術を身につけるとともに、具体的なライフプランを自ら立て、生活の中で起こり得るリスク等についても自身で解決できる能力を育てる。 【取組の方向性】 ・個々の能力に合わせてICTを適切に活用し、正確な知識及び技術の習得を目指す。
		基本的な知識及び技術を身に付けられるよう、基礎の反復を徹底する。 ⑪⑫	A		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	実生活で即実践できるよう教材や指導内容を精選し、担当教員と実習助手が連携し、生徒一人一人の進捗に対応したきめ細かい指導に努める。 ⑨⑬⑱	B		
		身近な内容から取りかかすることで興味・関心を強く持たせる。また、段階的に難易度を上げることで、生徒の自信につながるよう工夫する。 ①③	A		
	家庭生活の充実に結び付く工夫	実生活に結びついた題材を取り入れることで、学習したことを家庭生活の中で活用し、自身の生活習慣の改善や家事労働に役立てよう促す。 ⑦⑫	B		
		長期休業等を利用し、ホームプロジェクト(課題解決学習)を設定する。 ②⑦	B		
教科指導 (芸術科)	基礎的な知識と技術の定着	シラバスをもとに美術科における目標や指導内容、評価計画等を明確にした授業を実践する。 ⑫	B	B	【課題】 ・生徒の特性を理解し、一人ひとりの個性に応じた指導の工夫と深化。 ・「思考力・判断力・表現力」の総合的な育成。 【取組の方向性】 ・生徒が何を学ぶことができたかが明確な題材を設定する。 ・通信環境を確保し、ICT機器を活用した授業を行う。
		基礎的な知識や技術を身に付けられるように教材・副教材の精選を図り、効果的な指導方法による授業展開を行う。 ⑪⑫	B		
	学習意欲を高める指導方法の工夫	生徒ひとりひとりの個性に応じた個別指導の充実に努める。 ⑫⑬	A		
		ICT機器を活用した授業の工夫・改善に努める。 ⑪	B		
教科指導 (機械科)	基礎的・基本的な知識と技術の指導	実験・実習を通して基礎・基本的な技術指導の充実を図る。技術の発展に対応できる能力を養わせる。 ①②③⑥⑪⑬	B	A	【課題】 ・実験・実習、内容の見直しを行う。 ・老朽化した施設・設備の更新と破損した施設・設備の修繕 【取組の方向性】 ・工業基礎、実習にてブリーフィングを行い安全作業の徹底の継続
	キャリア教育の推進	実習等を通して、協力し作業等にあたる姿勢や責任のある態度を育成し勤労意欲の向上を図る。 ②③⑥	B		
	施設・設備の充実	老朽化した施設・設備の更新を進め、破損した施設・設備の修繕を図る。 ②③	A		
	資格取得の推進	資格取得の継続的に指導できる体制確立を図る。工業に関する知識・技能・技術を習得させる。 ①④⑬	B		
	作業事故の防止	機械・器具の整理整頓を心がけるとともに、安全作業を一層徹底して事故防止をする。 ②③⑥⑦⑨⑬⑱	A		
	指導者の技術向上	ICT研修を進めながら座学・実習の授業において展開し、指導者の技術向上を図る。 ⑤⑪⑫⑬	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (電気科)	教科指導の充実	基礎基本に重点をおき、基本的知識理解につながる指導を展開する。わかり易い授業を目指した授業の改善工夫をする。 ①②③⑧⑪⑬⑮⑱	B	A	【課題】 ・GIGA、ICT 機器を使って生徒に分かり易い授業は浸透しつつある。実習への導入に向けては継続的な検討し工夫、改善を図る。 ・資格試験の合格率の安定 ・実習の評価方法を評価基準の共通理解 ・実習時の事故防止 ・経年劣化した実習用機器、備品等の更新 【取組の方向性】 ・新学習指導要領の実施に向けてさらなる検討をする。 ・GIGA、ICT 機器を使って生徒に分かり易い授業・実習に向けての工夫、改善をする。 ・資格取得の指導力の向上、指導体制の確立を図る。 ・安全教育を実施し、実習の安全意識の向上を進めていく。 ・実習の評価方法の基準となるルーブリックの作成を検討 ・合理的配慮が必要な生徒の情報の共通理解を図る。 ・備品、消耗品の管理及び整理整頓、設備の更新を進める。
	ものづくり技術の習得	ものづくりの実習を充実させ、技術・技能の向上を図り、開放講座や産業祭等での体験教室を実施し、地域社会へPR活動を展開する。 ①②③⑤⑥⑭⑰	A		
	実習設備の整備	整理整頓、清掃を実施し、実習室の美化に努める。 老朽化した施設設備の更新と、既存機器類の性能維持に努める。 ②③⑥⑦⑨	B		
	資格取得の推進	課外指導を展開すると共に家庭学習の習慣を身に付けさせる。各資格試験の合格率の向上を目指す。 ①③④⑦⑧⑪⑫⑬	A		
	キャリア教育の推進	社会人として求められるの規範意識やマナーを身に付けさせると共に、健全な勤労観の育成と、電気科の卒業生としての望ましい進路意識の高揚を目指す。 ③④⑤⑥⑦⑧⑨⑬	B		
	安全教育の徹底	実習室の機器・器具の整理整頓を心掛ける。実習を通して、作業の安全に対する意識を高揚させる指導を行い、事故の未然防止に努める。 ②③⑥⑦⑨⑮⑱	A		
教科指導 (情報技術科)	教科指導の充実	基礎基本に重点をおき、わかり易い授業を目指すと共に、ICT等を活用した授業の改善・工夫を考え、カリキュラム編成を検討する。 ①②③⑪⑫⑬	B	A	【課題】 ・ICT 環境の整備・運用。 ・キャリア教育、課題研究の充実。 ・資格検定試験の合格率向上と上級資格取得に向けた取り組み。 【取組の方向性】 ・情報技術に関する基礎的技術・技能の習得 ・正しい勤労観および社会人基礎力の獲得
	課題研究の充実	ものづくり教育を推進しながら、専門性を重視し、課題研究に対して自主的・主体的に取り組む態度を養成する。 ①②③	A		
	キャリア教育の充実	健全な勤労観の育成を目指し、授業や実習を通して社会人としての規範意識やマナーを身につけさせ、進路希望の実現を目指す。 ④⑤⑥⑨	B		
	検定合格・資格取得の推進	情報技術関連をはじめ、各種検定合格・資格取得を目標とすることにより、専門教科への興味や関心を高め、工業に関する知識・技能・技術を修得させる。 ①②	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導 (建築科)	授業の工夫・改善	工業に関する知識・技能・技術を学び、実践力を身につけることで、主体的に取り組む態度を養う。 ①②③⑪	B	B	【課題】 ・ICTの活用場面を増やし、働きかけを積極的に行う。 ・教員側のタブレットのスキルの向上がより必要である。 ・資格指導やキャリア教育を通して、建築への興味を深めさせる。 【取組の方向性】 ・積極的なICTの活用を行うために、活用事例や情報の共有を行う。 ・課題研究という科目の特性を活かし、タブレットの有効活用を行う。
		積極的にICTを活用するなど授業の工夫、改善に努めながら、生徒の興味や関心を引き出す。 ⑪	B		
	キャリア教育の充実	建築関連の資格取得をはじめ、工業全般の資格取得を目標とすることにより、専門教科への興味や関心を持たせる。 ①②	A		
		実習開始の事前指導を通して、授業に取り組む姿勢や基本的生活習慣を身に付ける。 ⑥⑧⑨	B		
		現場見学会や建設会社での就業体験を実施し、建設業界への理解や建築への興味・関心をさらに持たせるとともに、建設会社への就業意識を高める。 ④⑤⑥	A		
	PRの推進	各種イベントや発表会等の機会を通じて、課題研究や実習等の成果を生徒とともに校内外に情報発信をする。 ⑭⑰	B		
		生徒の取り組みや学校生活が見えるように、ホームページを積極的に活用する。 ⑰	A		
教科指導 (土木科)	土木に関する基礎技術の習得	授業などを通し基礎学力の充実を図り、土木技術の進展に対応できる能力を養う。 ①⑫	B	B	【課題】 ・建設業への就業意識を向上させ、就職者数の増加につなげる。 【取組の方向性】 ・建設産業界との連携し、建設現場インターンシップや現場見学の機会をつくる。 【課題】 ・測量士補および2級土木施工管理技士の合格者数の増加に努める。 【取組の方向性】 ・長期休業中などに補講を実施する。
		生徒の実態に合った授業内容の工夫や教員の指導力の向上及び放課後等の補習の実施により、学習内容の定着に努める。 ①⑪⑬	B		
	勤労観および社会人基礎力の育成	専門教育を通して、土木技術の社会的意義を理解させ、正しい勤労観を養う。 ③⑥	B		
		体験学習などを取り入れ、土木技術の社会的意義や重要性を実感させる。 ③⑤	B		
		服装や挨拶、時間厳守などの指導を徹底することにより基本的生活習慣の確立を図る。 ⑦⑨			
	生徒理解に努める	授業等の時間及び面談を通し生徒理解に努める。 ⑧	A		
教 務 部	特色ある教育課程の編成と運営	新学習指導要領へ向けた新課程の実施と、カリキュラムマネジメントの促進に努める。 ⑪⑫⑬	B	B	【課題】 ・カリキュラムマネジメントによる教科横断的取り組みの促進 ・新教育課程における評価項目の検討 ・教員の働き方改革に伴う校務のスリム化 ・ICTの増進と学習用端末の効果的活用 【取組の方向性】 ・新教育課程とカリキュラムマネジメントの融合化 ・校務や授業などでのICTの活用による働き方改革の推進 ・情報管理部・学習指導部との連携 ・学校案内・WeBページなどによる本校の魅力の発信
		学習評価の工夫改善を推進し、観点別評価のより一層充実に務める。 ⑪⑫⑬	B		
		学校行事等の精選と授業時間確保を行い教員の働き方の効率化に努める。 ⑪⑫⑬⑱	B		
	学校紹介の充実	工業科施設見学・説明会、中学校説明会を充実させ、本校の魅力を直接的に地域に伝える。 ⑰	A		
		学校案内、WeBページ等のデザインや内容の充実を図る。 ⑰	A		
	教員研修の充実	電子黒板や学習用端末などのICT活用、いじめ対応やコンプライアンス等の教員研修を充実さる。 ⑩⑪⑫⑬	B		
	成績不振生徒の減少	各学年・各担任・教科担当者・保護者等と連携して、学習成績・欠課状況を把握し面談を実施したの生徒に働きかける。夏季休業中の補習計画を計画し、成績不振生徒の学力定着への支援を図る。 ⑪⑫	A		

別紙様式 2 (高)

学習指導部	生徒の進路希望に沿った学習態度の育成と向上心の高揚	生徒が自ら学習に意欲的に取り組む態度を育成することで、基礎学力の向上を図る。分掌・学年・教科と連携して基礎学力テストを実施、進学希望者への対応も検討する。各種奨学金の紹介を通して、在校生・進学予定者を支援する。 ③⑪⑫	B	B	【課題】 ・資格取得への意欲喚起。 ・GIGA 端末のより効果的な利用促進。 【取組の方向性】 ・学力向上の指針に基づき、個々の学力向上をはかる。また、生徒がさらに積極的に学習活動へ向かうように促す。 ・ICT 機器等の効果的な利用を促進する。
	資格取得の奨励	生徒が自ら資格取得の意義や重要性を理解、積極的な出願・取得に至るようHR・授業を通して指導する。 ①⑬	A		
		検定受検や、資格取得を通して生徒に達成感を持たせ、学力増進の意欲向上を図る。 ①⑪⑫	B		
	指導計画・評価の明確化	シラバスを作成することで、指導目標、評価の観点、方法を明確にして、生徒の主体的な学習参加を促す一助とする。 ②⑬	B		
	ICT教育活動の推進とGIGAスクール対応	教育活動での活用例の紹介などを通して、ICT機器の利活用を促進していく。生徒・教員のGIGAスクール構想への理解を深め、効果的な教育活動になるように支援する。 ⑪⑭	B		
	学力向上	学びの基礎診断を活用した基礎学力テストを推進し、学力向上委員会と連携して生徒の基礎学力の定着をはかる。工業系大学進学希望者への課外実施を支援する。 ⑪⑫	B		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	全職員による年間を通した朝の立哨・昼の巡回指導、生徒への声かけを行い、基本的生活やマナーアップの向上や規範意識の向上を図る。遅刻指導を実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。校内におけるスマホ使用のマナーやながらスマホ・イヤホンについて指導の徹底を図る。 ⑦⑧⑨	B	B	【課題】 ・頭髪指導や問題行動において、各学年との情報交換と連携が必要。 ・遅刻者数の増加。 ・生徒指導案件の増加。 【取り組みの方向性】 ・生徒の現状と現在の校則の適切であるについて検討する。また、校則の細部について再確認し、基準を明確にする。 ・現在生徒指導部で実施している遅刻指導を各クラス、各学年単位で実施する。 ・SNSに安易に投稿することについて危険性について指導を徹底していく。 ・交通事故防止対策として、不定期な巡回指導や各学年での交通講話を実施する。
	問題行動の未然防止	校内・校外の巡視及び立哨指導、被害調査を定期的及び臨時的に実施し、問題行動の未然防止に努める。更に家庭や関係機関との連携を密にし、情報共有を図り、適切な指導を行う。 ⑦⑧⑩	B		
	交通安全教育の推進	交通事故防止対策について、関係機関と連携を強化すると共に、交通法規やマナーについて、ホームルームや集会、講習会等を通して指導し、交通事故の未然防止を図る。自転車点検、バイク点検を年3回実施する。 ⑧⑨	A		
	インターネットを介した諸問題の防止	「土浦工業のスマホ等の使用のルール」について周知徹底を図り、又ホームルーム活動での啓発や講習会での啓発など、ネット(SNS等)を利用時におけるトラブルの防止に努める。 ⑨⑩	B		
	校則検討	学校や社会の実態に即した校則を、生徒会役員を含む校則検討委員会と共に、年に1回検討する。 ⑧⑨⑭	B		

別紙様式 2 (高)

進路指導部	3年間の明確な進路指導計画の立案と実施	計画的な進路ガイダンスにより、早い段階で進路目標を明確にし、将来に夢や希望が持てるキャリア教育の展開を図る。 ③④⑤⑥ 各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して各自の適性を知り職業観の定着を図る。 ③④⑤⑥ 【インターンシップ】【進路セミナー】等を通して、勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。 ④⑤⑥⑦⑧	B	B	3年間を通したキャリア教育を、各部署と連携しながら実践する。 ①1年次:個々のキャリアプランを作成する。 ②1～2年次:自己を知り、強みを伸ばす。 ③2年次:企業(学校)研究を行い自ら希望する企業でのインターンシップを行い、職業観、就業観のさらなる育成を図る。 ④3年次:4月の進路セミナーで進路決定の最終段階へと結びつける。 ・多忙な事務処理の効率化および簡素化を図る。 ・基礎学力の向上や大学進学にも対応したきめ細かい指導の工夫と実践を図る
	求人への安定確保のための諸方策の検討と実施	早期より各企業の最新の情報を収集・分析し、質・量ともに充実した求人を確保する。 ③④ 求める人材等、各企業から得た情報についてデータ化を行い、進路指導資料として有効活用する。 ③④	A		
	基礎学力向上のための指導の検討・実施	授業を中心とした基礎的な学力の定着と主体的な学習態度の確立を図る。 ①②③ 学習指導部と連携し、基礎力診断テスト等のデータを有効的に活用することにより、基礎学力の向上や進路活動につなげる。 ①②③	B		
	外部との連携の充実	産学連携や高大連携を有効的に活用し、専門知識及び技術のスキルアップや職業意識の高揚を図る。 ①②③④⑤⑥⑦ 保護者への計画的・継続的な啓発活動を図る。 ⑦⑧⑨	B		
	情報提供の充実	「進路の手引き」、「進路だより」の発行や求人票のPDF化により、わかりやすくて確かな情報提供を行う。 ④⑨⑩ 進路指導室の資料閲覧等、利用しやすい環境作りに努める。 ③⑩	A		
図書視聴覚部	図書館・視聴覚室の利用の活発化を図る	様々な機会を捉え、授業やHRや学校行事その他、幅広い方面での図書館・視聴覚室利用を促し、職員・生徒への便宜を図る。 ②③⑨ 担当職員間での連携を密にし、昼休み・放課後の当番制を実施し図書館の運営にあたる。 ⑩	B	B	【課題】 ・図書館利用の向上 【取組の方向性】 ・平日の放課後等の常時開館の継続を目指す。 ・図書委員会の更なる活性化。
	施設の利用マナーを通じた規範意識の育成	利用生徒のマナー向上が図れるように徹底する。 ⑧ 図書委員の生徒が積極的に活動できるよう委員会を指導する。 ⑥⑭	A		
	図書館・視聴覚室の利用環境整備	職員側・生徒側からのニーズに合わせて、蔵書・器材等の充実を図り、計画的な購入整備を進めるとともに、図書館内の資料室の整理整頓に努める。 ③⑪⑫	B		
	読書指導の充実	「図書館のしおり・図書館だより」や図書館内のコーナーなどで情報の発信を行い、読書への興味を喚起するとともに様々な形態での楽しみ方を提供する。 ③⑥⑨⑰	B		
渉外部	PTA活動の活性化	本部役員を中心とした委員会活動や研修会などを通し、保護者と教職員が連携を取り、協力し合うことで、PTA活動の充実と活性化を図る。 ⑯	B	B	【課題】 ・ホームページの更新などにより、家庭への情報発信の充実を図る。 【取組の方向性】 ・ホームページの更新内容について、検討する。
	積極的な情報発信	広報誌「いちよう」の発行や学校ホームページの更新することで、情報を家庭に伝わるようにすると共に、研修会などを通して保護者と教職員の親睦を図るなど、開かれた学校づくりに努める。 ⑰	B		

別紙様式 2 (高)

保健厚生部	健康の保持増進	定期健康診断を正確に受けさせ未実施者をなくす。 ⑭	A	B	【課題】 ・ゴミの分別(特に、ペットボトルと空き缶)と少量化。 ・弾道ミサイルに対する、防災避難訓練の検討。 【取組の方向性】 ・新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ拡大防止対策の徹底。 ・生徒の多様化に伴い、カウンセリングの充実と、関係機関との連携。
		HRと連携し、健康・安全の自己管理能力を高める。 ⑦	B		
		カウンセリングの充実と、関係機関との連携をより図る。 ⑧⑩	A		
	環境衛生の維持向上	日常検査及び定期検査を実施し、事後処理を迅速に対応する。 ⑨	B		
		毎日の清掃指導を徹底させるとともに、きれいに使う指導する。 ⑦	A		
		ゴミの分別(ペットボトルと空き缶)と少量化に努める。整美委員会により環境美化を図る。 ⑦	B		
	安全な学校生活の保持	学校生活を通して危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ⑦⑭	B		
		緊急時にはその場にいる教職員が迅速に対応する。 ⑦⑧	A		
		防災訓練は地震火災等の状況下の避難方法を経験させる。 ⑨	A		
		地域住民と連携し安全の確保を図る。 ⑦	B		
特別活動部	生徒会活動・学校行事の活性化	学校行事を通して、生徒一人一人に役割を持たせ、自分も関わろうとする意欲を引き出すように務める。工業祭、つちこうフェスなどの行事を通して責任感や自主性、協調性の育成に努める。 ③⑧⑨⑩⑭	B	B	【課題】 ・主体的に各活動、各行事の計画立案、運営に各生徒が関わっていない部分がある。 ・生徒会の活動が校内にとどまっている。 【取組の方向性】 ・各活動、各行事において計画的に運営を図り、生徒一人一人に役割を持たせ、能動的に関われるように働きかける。 ・生徒会による積極的な校外活動および他校との交流を図りたい
	部活動の活性化	新入生の部加入を促して加入状況を把握し、部顧問とHR担任との円滑で連携した指導につなげ、適正な運用に努める。また、行事費、旅費等の便宜を図り、生徒への予算の還元に心がける。家庭とも連携し、積極的かつ継続的な活動ができる環境づくりを図る。 ⑦⑭⑮	B		
	HR活動の活発化	HR活動の年間計画を検討し、学年、担任と協力してHR活動の活発化を促し、生徒の集団内での自己実現を図り、誇りや愛校心を持てるような活動を通して育成する。 ⑭	B		
	キャリアパスポートの運用	進路指導行事や各学科の学習活動と関連づけたキャリアパスポートの活用を促し、各HRおよび特別活動を通して生徒の自己のキャリア形成を支援する。 ⑤⑥⑭	C		
	生徒会の委員会の活用を促す	担当校務分掌との連携を図り、生徒会の行事に委員会が積極的に関わるように働きかけ、成果を通して生徒の参画意欲を育てる。 ⑧⑨⑭	A		
	生徒会活動の広報	生徒会HP、校内モニターを活用し、生徒会活動・学校行事等の広報に努める。 ⑭	A		
情報管理部	校内LANの管理・運用を行う	校内LAN、ファイルサーバの管理・運用を適切に行い、有効に活用できるように努める。 ⑨⑬	B	B	【課題】 ・校内LANのハード面(回線)の点検及び整備(改修)が必要と思われる。 【取組の方向性】 ・次年度予算要求をして、校内LAN ・回線の点検・整備を行えることよいのでは。
	校務支援システムの運用支援を行う	校務支援システムの管理・維持を行い、円滑な運用と適切な活用ができるように努める。 ⑨⑬	A		
	情報発信の改善・運用を行う	ホームページを適切に管理・運用し、本校からの情報発信を行う。 ③⑪⑫	B		
	ICT教育の支援を行う	教育セグメントの環境整備に努める。ICT機器、備品等の適切な維持・管理に努める。 ③⑥⑨⑰	B		

別紙様式 2 (高)

第 1 学年	豊かな心の育成と基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣が確立するよう、時間や学校のルールを守らせ規範意識を高める指導を行う。また、人間相互のコミュニケーションを深めるために挨拶をしっかりとできるように指導する。 生徒面談、保護者面談を通して生徒理解に努め、適切な指導を行う。 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見解決に努める。	⑦⑨ ⑧⑬ ⑩	B	B	【課題】 ・基本的な生活習慣について寝坊による遅刻者を減らすことが難しく、欠課時数による指導する生徒が多くなってしまった 【取組の方向性】 ・卒業後の進路を見据え、2学年を進路実現のための充実した準備期間の1年とするための、様々な仕掛けを効果的に実施する。 [2年での主な学年行事] ・保護者面談(6月) ・オープンスクール、(7・8月) ・修学旅行(11月) ・インターンシップ・三者面談(12月)
	基礎学力の向上と資格取得の推進、進路意識の向上	一人一人の学力を把握し、個別に課題を与えるなど、効果的な家庭学習ができる環境を整え、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。 一人一つ以上の資格取得、検定試験の受験を促し、合格できるよう指導する。 進路指導部と連携し、講演会やワークショップを実施して進路意識の向上を図る	⑫ ① ⑬	A		
	生徒会活動や部活動の活性化	部活動の加入、継続を促し、生徒の有意義な交友関係と学年全体の活性化を図る。	⑭⑮	B		
第2学年	基本的な生活習慣と規範意識の確立	「道徳プラス」をホームルームで実施し、主体的・協働的な態度を育成する。 「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努める。 面談等をととして保護者と連携し、基本的な生活習慣・規範意識の確立を図る。	⑦⑧⑨⑩	B	A	【課題】 ・進路希望があいまいな生徒や希望進路について十分な掘り下げができていない生徒をどのように指導していくか。 【方向性】 ・担任による個人面談をこまめに行うとともに、学年全体での作文指導や進路セミナーをきっかけとして進路希望を明確にするとともに希望する理由の掘り下げを行う。
	基礎学力の定着と資格取得の促進	1学年から実施している基礎学力テストの結果を利用して面談時に学習指導を行うとともに、SPI や一般教養問題集を定期的かつ基礎学力の定着を図る。夏季休業中の前後及び学年末考査の後に作文指導を行い、志望理由などの文章を書く能力の向上をはかる。積極的に資格取得に取り組みせ、工業に関する知識・技能を修得させる。	①②⑫⑬	A		
	進路意識の高揚とキャリア教育の推進	進路ガイダンス(生徒向け・保護者向け)を実施し、早い段階から進路希望の明確化を図る。 就職希望者に対して、企業インターンシップを実施し、正しい勤労観・職業観を確立すると共に、コミュニケーション能力を育成する。進学希望者に対して、資料提供とオープンキャンパスへの参加を促す。	③④⑤⑥	A		
	充実した修学旅行の実施	ホームルームの時間や現代社会の時間を利用して事前指導を十分に行い、安全で充実した修学旅行を実施する。	⑨⑭	A		
	生徒理解と保護者との連携	定期的に個人面談を実施し個々の生徒理解に努めるとともに、保護者面談や電話での会話をととして教師と保護者の連携を密にして、教師と保護者の信頼関係の構築に努める。学年 PTA の実施など、生徒や保護者にとってより身近な事案について学年 PTA を実施するなどして、保護者が学校行事に参加しやすい環境を整える。	⑯	A		
第3学年	基礎学力の定着と資格の取得	就職試験対策と基礎学力定着のために、一般常識・SPI 問題対策を行う。資格は卒業後も社会で役に立つことを十分に伝え、生徒の資格取得を促す。	①③⑫⑬	B	A	【課題】 ・生徒の希望進路の実現に向けて、斡旋就職はもちろんのこと、公務員や進学指導対策についてどのように指導していくか。 【取組の方向性】 ・学年で一般常識&SPIドリルを購入し、LHR等で活用する。そして、担任が生徒面談をこまめに行うとともに、家庭との連携・連絡を密にする。また、各教科と連携しながら指導する。 【検証】 ・公務員希望者の結果が乏しく、進学希望者も苦戦を強いられている。進学課外の重要性が求められている。
	進路実現に向けた生徒への指導	生徒の進路実現に向け、家庭との連携・連絡を密にする。面接の受け方や履歴書・志望理由書の書き方を指導して、生徒が自信を持って試験に臨めるようにする。また、大学受験に必要な学力はもちろん、進学後も順調に進級、卒業できる基礎学力と学習習慣を身につけられるよう支援する。	②④⑥⑬	A		
	社会人になるための生活習慣、規範意識の確立	健康で活力ある生活を維持するため、食事や睡眠をおろそかにしないよう日頃から呼びかけ、遅刻や欠席を減らす。LHR、学年集会を通して校則や社会のルールを遵守する意義を伝える。また、生徒指導部と連携して時間と服装を守る意識を高める。	⑦⑧⑨⑭	A		
	生徒理解と保護者との連携	生徒面談や保護者面談を通してクラス、学年や学校の情報を共有する。普段から連絡を密にして連携を強化する。	⑩⑯⑰⑱⑲	A		

別紙様式 2 (高)

いじめ問題 対応の取組	未然防止	生徒の自己指導能力を高める。	⑧⑨⑩	B	A	【課題】 ・今後も組織的・継続的にいじめの未然防止、早期発見に努める。 ・関係機関と情報交換を密に連携を深め、保護者や地域と協力して対応する。 ・教員研修を充実させ、特別支援に関する対応方法などの共通理解を持つ。 ・いじめの事実を確認した場合は、組織として対応し、特に被害者の心のケアと早期解決に努める。 【取組の方向性】 ・いじめの温床は様々な場面に起こりうるので、学校風紀の安定はとても大切であるので、いじめ防止対策会議の中でも、生徒情報の共有は今後も密に行う。
		生徒の自己有用感を高める。	⑧⑨⑩	B		
		生徒の規範意識を高める。	⑧⑨⑩	A		
		生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。	⑧⑨⑩	A		
		情報モラル教育を推進する。	⑧⑨⑩	A		
	早期発見	いじめの早期発見に努める。	⑧⑨⑩	A		
		保護者から学校へ相談できる関係を構築する。	⑩	A		
		複数の相談窓口を生徒や保護者へ周知する。	⑩	A		
	早期解消	被害者の心のケアをする。	⑧⑨⑩	A		
		適切にいじめの事実を確認する。	⑧⑨⑩	A		
		加害者に対して、いじめをやめさせる。	⑧⑨⑩	A		
		重大事態の調査をし、県教育委員会を通じて知事へ報告する。(重大事態があった場合)	⑩	A		
		インターネットを通じて行われるいじめに適切に対応する。	⑧⑨⑩	A		
	関係機関との連携	保護者と密接に連絡を取り合う。	⑩	B		
		地域の協力を得ていじめに対応等する。	⑩	A		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	⑩	B		
		学校以外で起きたいじめに適切に対応する。	⑩	B		
	教職員研修	実践的研修を行う。	⑩	B		
		事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	⑩	A		
		インターネット・SNS 等 に関する研修を行	⑩	B		

※ 評価規準 A:十分達成できた B:達成できた C:普通D:やや不十分E:不十分